



食と農で地域を元気に

第8次 営農振興3か年計画

令和7年度～令和9年度



目次

I. はじめに	1
II. 香川県農業の概要	2
III. JA香川県の目指すべきビジョンと方向性	9
IV. 部門別施策	
1. 営農振興部門	10
2. 担い手サポート部門	12
3. 農産部門	13
4. 園芸部門	15
5. 畜産部門	17
6. 経済部門	18
V. 販売計画	19
VI. 再編実行計画に関する進め方	20
VII. 農業経営指標	21

当組合では「第8次営農振興3か年計画」の取組みについて、
ウェブサイトでお伝えしています。



I. はじめに

第8次営農振興3か年計画は、第8次中期経営計画の重要な構成要素として展開しています。第8次中期経営計画に含まれる3つの要素は相互に関連し合い、持続可能な農業の実現に向けた取組みを支えています。



① 計画の目的

本計画は、「食と農で地域を元気に」というスローガンのもと、地域農業の持続的な発展を目指し、「農業従事者の育成」「農業生産性の向上」「農業所得の増大」を実現することを目的として策定しています。地域の特性を最大限に活かし、農業の生産基盤を強化することで、農業振興と地域の活性化を図ります。また、次世代に引き継ぐ活力ある農業の実現を目指します。

② 計画の背景

近年、地域農業は多くの課題に直面しています。特に、農業従事者の高齢化や後継者不足、気候変動に伴う異常気象、さらに農畜産物価格の不安定性といった要因が、地域農業の持続可能性に深刻な影響を与えています。これに加えて、生産資材価格の高止まりが農業経営にさらなる負担をかけており、経営環境はこれまで以上に厳しさを増しています。このような状況の下で、地域農業の持続可能性を確保するためには、これらの課題を総合的に捉え、効果的な対策を講じることが求められています。特に、地域の特性を最大限に活用した農業振興や、自然環境に配慮した農業の実現が急務となっています。

③ 計画の期間

本計画は、令和7年度から令和9年度までの3年間で計画期間としています。この期間において、重点となる取組方針を設定し、それらの目標を達成するための施策を実行します。さらに、定期的に施策の進捗を評価し、計画に基づいて着実に実践します。

II. 香川県農業の概要

1. 本県農業のあらまし

本県の県土面積は、国土面積の0.5%と全国で最も狭いものの、平野部が多く耕地面積は28,500ha（令和5年）で全国の0.7%を占めています。

本県の1経営体当たりの経営耕地面積は1.1haと、全国平均（3.1ha）の3分の1程度で農業経営規模は零細であるものの、ため池や香川用水などにより農業用水を確保し、農地の効率的な利用や経営の複合化を図り、生産性の高い農業が営まれてきました。また、恵まれた気候や立地条件の下、収益性の高い作物を中心にブロッコリー、レタス、にんにく、金時にんじん、マーガレットなど全国に誇れる特色ある農産物が栽培され、県内はもとより京浜や京阪神地域等に対し、新鮮で良質な農産物を供給しています。

本県農業の基礎的指標

区 分	香 川 県	全国比率	全国順位	全国計（全国平均）
農家戸数（令和2年）	29,222戸	1.67%	28位	1,747千戸
農家人口（個人経営体の世帯員数）（令和2年）	50,978人	1.46%	30位	3,489千人
耕地面積（令和5年）	28,500ha	0.66%	40位	4,297千ha
水田率（令和5年）	83.5%	—	8位	54.3%
経営耕地面積*1（令和2年）	17,662ha	0.55%	40位	3,233千ha
経営耕地のある実経営体数*1（令和2年）	16,365経営体	1.55%	30位	1,059千経営体
1経営体当たり経営耕地面積*1（令和2年）	1.1ha	—	41位	3.1ha
農業産出額（令和4年）	855億円	0.95%	35位	90,147億円
米	113億円	0.81%	37位	14,015億円
野菜（いも類含む）	247億円	1.01%	30位	24,421億円
果実・花き	93億円	0.73%	36位	12,725億円
畜産	384億円	1.11%	26位	34,673億円
その他	18億円	—	—	4,313億円

資料：農林水産省「農林業センサス」「耕地及び作付面積統計」「生産農業所得統計」

*1 農業経営体の全体（個人経営体+団体経営体）についての数値

全国上位に位置する数々の農産物

順位	農産物	全国比率	生産量	期間
1位	金時にんじん	98%	1,845t	令和4年度
	オリーブ	87%	522t	令和3年
	マーガレット	84%	1,293千本	令和3年
2位	ラナンキュラス	18%	2,088千本	令和3年
3位	はだか麦	14%	2,310t	令和4年
	ヒマワリ	6%	1,229千本	令和3年
	にんにく	4%	728t	令和4年
4位	ブロッコリー	8%	13,300t	令和4年
5位	びわ	5%	128t	令和4年
	冬レタス	6%	11,500t	令和4年
10位	たまねぎ	1%	8,570t	令和4年

資料：農林水産省「作物統計調査」
「特産果樹生産動態等調査」

大阪市中央卸売市場「市況情報」
農業生産流通課

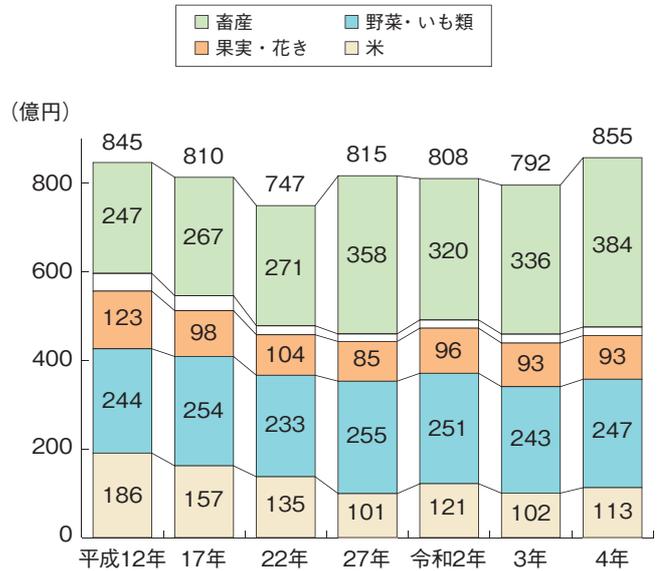
2. 農業経済の動向

① 農業生産と生産性の動き

農業産出額^{*2}は、品目ごとの生産量の増減や販売価格の増減によって変動するものの、近年は横ばいの傾向にありました。令和4年は、主に販売価格の上昇の影響により、農業産出額は855億円で、前年(792億円)に比べ63億円増加しています。部門別に見ると、耕種(米・野菜・果実・花き等)は471億円で、前年に比べ16億円増加し、畜産は384億円で48億円増加しました。

令和4年の生産農業所得^{*3}は276億円となっており、前年(282億円)に比べ6億円減少しています。生産農業所得を耕地10aあたりで見ると95千円となり、前年に比べ1千円減少しました。

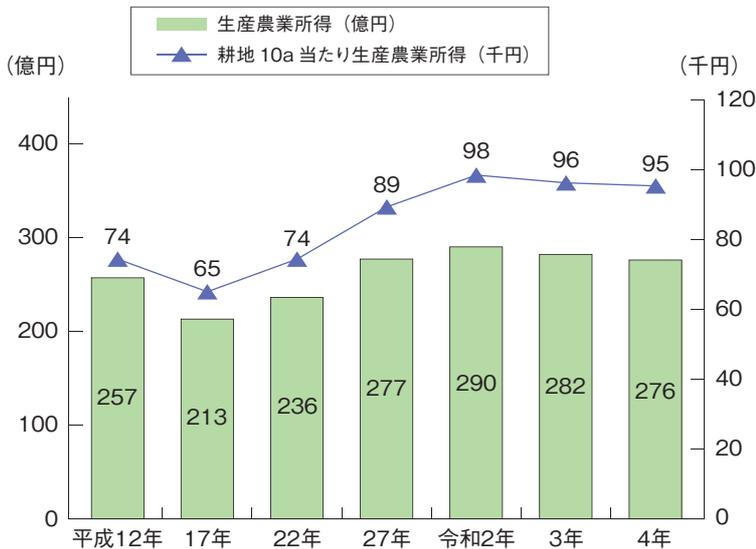
農業産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

(注) 耕種の一部の数値を表示せず、空白としているため、項目ごとの金額の計と全体額は一致しない。

生産性の推移

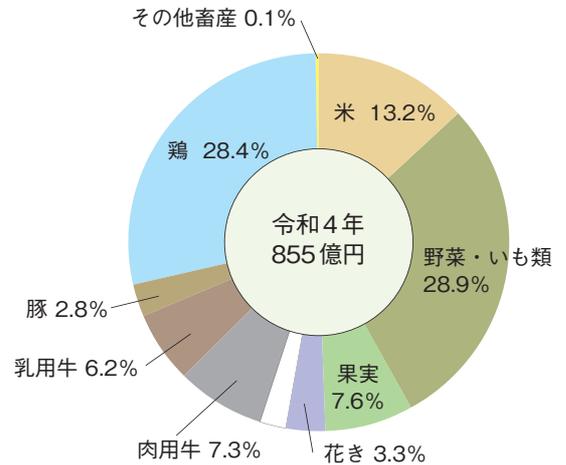


資料：農林水産省「生産農業所得統計」

^{*2} 農業産出額 農業産出額＝Σ(品目別生産量×品目別農家庭先販売価格)
ただし、品目別生産量は、収穫量から再び農業に投入された種子・飼料等を控除した数量である。
なお、加工農産物の産出額は、その原料の(数量×価格)を控除して算出する。

^{*3} 生産農業所得 生産農業所得＝農業産出額
×{(農業粗収益－物的経費)÷農業粗収益}
＋経常補助金
(この計算時の農業粗収益からは経常補助金を除く)

農業産出額の割合(令和4年)



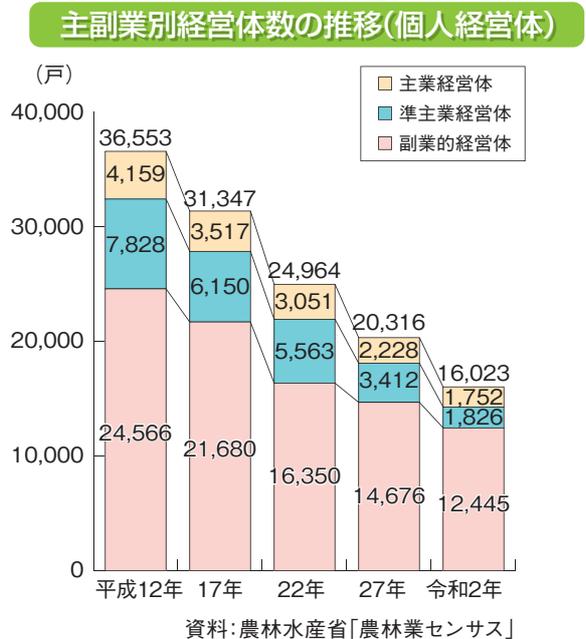
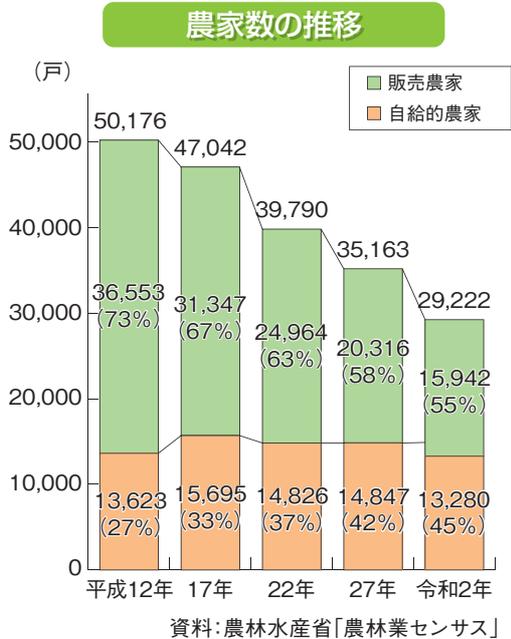
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

(注) 耕種の一部の数値を表示せず、空白としている。

3. 農業生産構造の動向

① 農家数と主副業別経営体数

令和2年の農家数は29,222戸で、平成27年に比べて5,941戸(16.9%)減少しました。販売農家も4,374戸(21.5%)減少し、自給的農家^{※4}も1,567戸(10.6%)減少しました。また、個人経営体のうち、主業経営体^{※5}は21.4%、準主業経営体^{※6}は46.5%、副業的経営体^{※7}は15.2%減少しました。

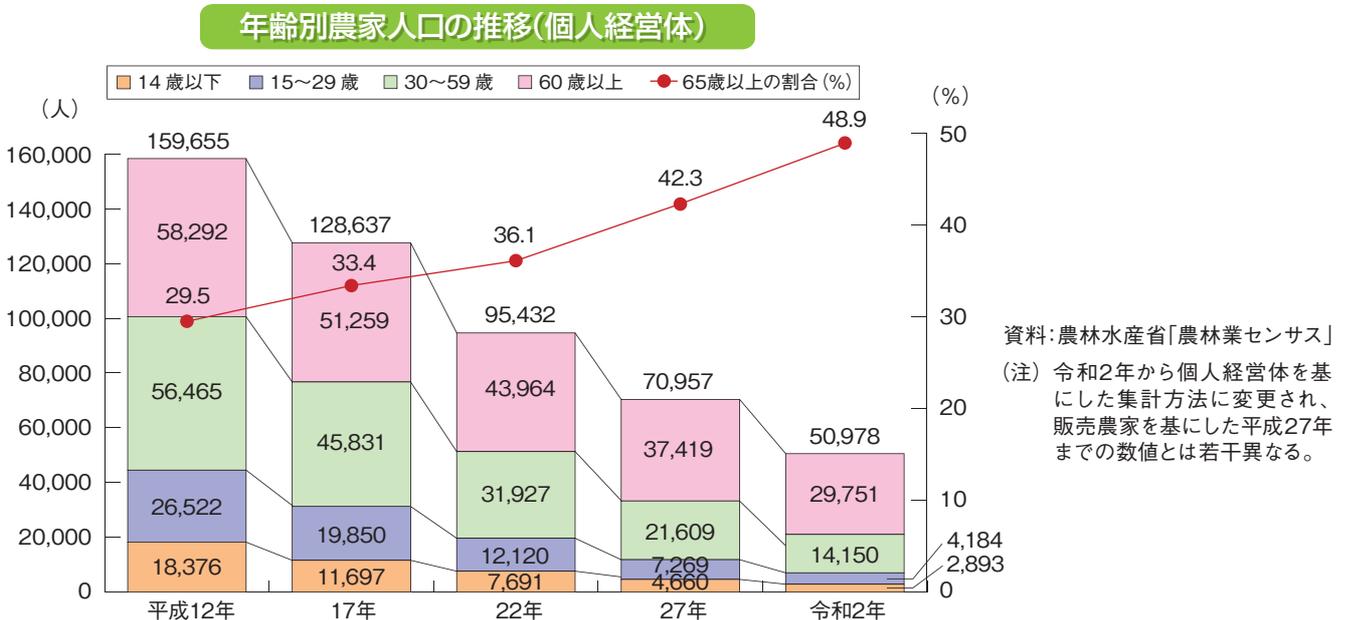


(注) 令和2年から個人経営体を基にした集計方法に変更され、販売農家を基にした平成27年までの数値とは若干異なる。

- ※4 自給的農家 経営耕地面積が30a未満かつ1年間の農産物販売金額が50万円未満の農家
- ※5 主業経営体 農業所得が主(世帯所得の50%以上が農業所得)で、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体
- ※6 準主業経営体 農外所得が主(世帯所得の50%未満が農業所得)で、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体
- ※7 副業的経営体 自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がない個人経営体

② 農家人口

本県の農家人口(個人経営体^{※8}の世帯員数)は、他産業の発展などにより減少傾向で推移しています。年齢別にみると、令和2年は、農家人口に占める65歳以上の者の割合が48.9%となっており、平成27年の42.3%と比べ6.6%増加し、高齢化が進んでいます。



- ※8 個人経営体 個人(世帯)で事業を行う経営体
法人化して事業を行う経営体は含まない

③ 新規就農者

(単位：人)

	新規就農者数							合計
	40歳未満	うち			40歳以上 65歳未満	うち		
		新規学卒者	帰農者	新規参入者		帰農者	新規参入者	
平成12年度	18	(3)	(11)	(4)	11	(6)	(5)	29
17年度	27	(2)	(18)	(7)	15	(9)	(6)	42
22年度	78	(17)	(30)	(31)	20	(15)	(5)	98
27年度	123	(21)	(41)	(61)	35	(17)	(18)	158
令和2年度	90	(15)	(17)	(58)	44	(17)	(27)	134
4年度	100	(8)	(19)	(73)	40	(14)	(26)	140
5年度	104	(13)	(29)	(62)	37	(14)	(23)	141

(注)平成16年度より雇用就農を含む。

資料：農業経営課

④ 認定農業者^{※9}

(単位：人)

	平成28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
認定農業者数	1,644	1,657	1,696	1,729	1,706	1,699	1,696	1,711

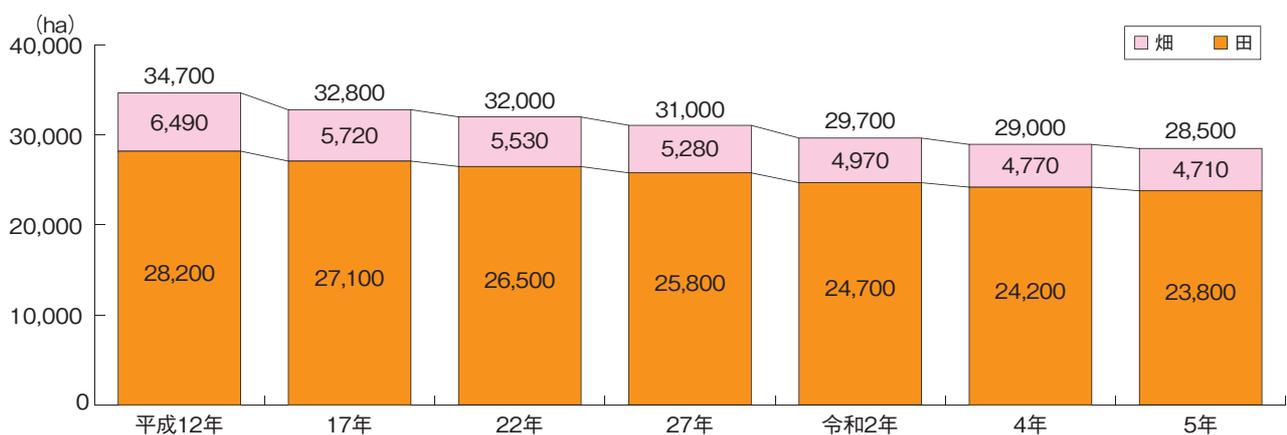
※9 認定農業者 農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画の市町村の認定を受けた農業経営者・農地所有適格法人

4. 耕地面積および作付面積の動き

人口密度の高い本県においては、農業と農業外の土地利用の混在化が進んでおり、耕地面積は宅地や道路などの非農業的土地需要から、毎年減少傾向にあります。令和5年は、前年より500ha減少し 28,500haとなりました。また、農業従事者^{※10}の減少や高齢化などを背景に、耕作条件の悪い中山間地や島しょ部のみならず、比較的條件に恵まれている平野部においても農地の遊休化が進んでいます。

令和4年の作付(栽培)延べ面積は前年より500ha減少して23,200haとなっています。また、同年の耕地利用率は、前年に比べ0.9%減少して80.0%となりました。このほか、遊休農地等については、10年前と比べて、再生利用可能なものは減少傾向、再生利用困難なものは増加傾向にあります。

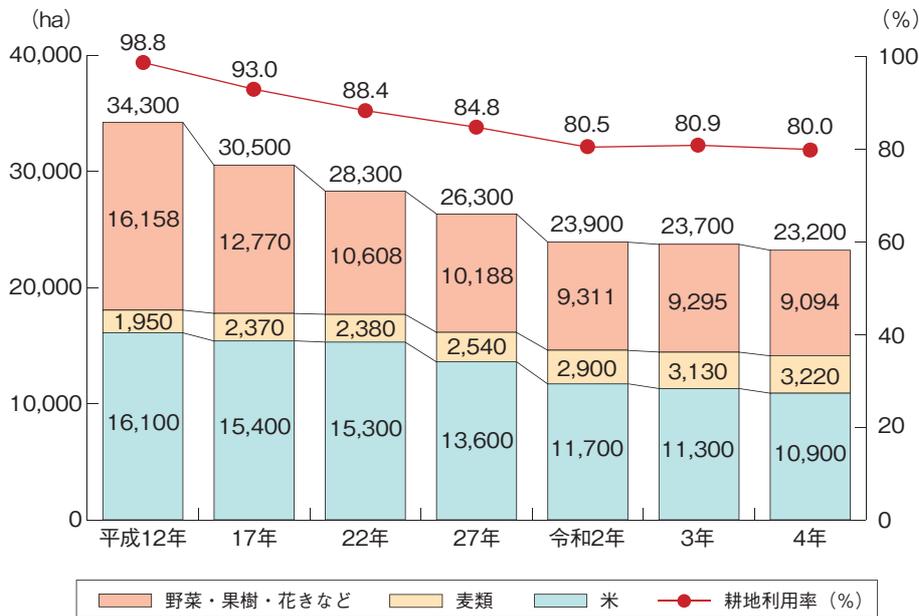
耕地面積の推移



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

※10 農業従事者 15歳以上の世帯員のうち、自営農業に従事している者

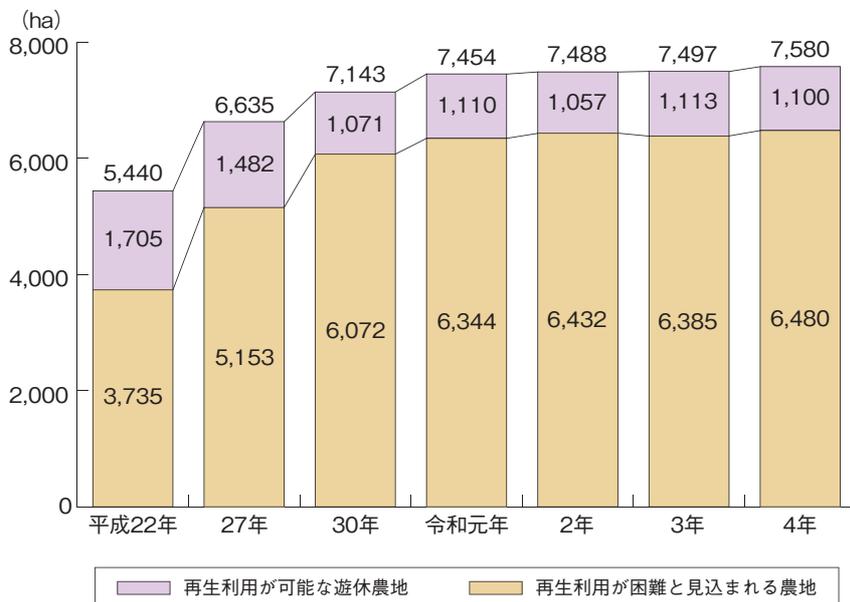
作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率の推移



資料：農林水産省
「耕地及び作付面積統計」

(注) 平成29年産から、調査の範囲が全国から主産県に変更されるとともに、調査実施周期が見直されたことにより、野菜・果樹がその他作物に含まれることになったため、過年度分を再集計している。

遊休農地等



資料：農林水産省
「荒廃した耕作放棄地等の状況調査」(平成22年)
「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査」(平成23年から令和2年まで)
「遊休農地に関する措置の状況に関する調査」(令和3年から)

記載している数値は、農林業センサスなどの調査結果に基づいて作成しています。これらの調査は数年ごとに行われており、直近の調査結果に基づいています。今後、新たな調査結果が公表され、データが更新され次第、修正を行い、当組合のホームページに掲載する予定です。

5. 主要品目の生産状況

普通作物

(単位：ha, t)

種類	区分	平成12年	17年	22年	27年	令和2年	4年	5年
米	面積	16,100	15,400	15,300	13,600	11,700	10,900	10,200
	生産量	82,100	76,800	76,800	63,900	58,000	55,700	50,600
麦	面積	1,912	2,370	2,377	2,538	2,902	3,220	3,410
	(裸麦)	(1,310)	(1,040)	(857)	(918)	(802)	(852)	(761)
	(小麦)	(602)	(1,330)	(1,520)	(1,620)	(2,100)	(2,360)	(2,630)
	生産量	8,570	6,380	6,110	7,270	11,200	11,300	11,700
大豆	面積	546	322	143	102	60	71	52
	(白)	(420)	(189)	(80)	(66)	(39)	(34)	(32)
	(黒)	(126)	(133)	(63)	(36)	(21)	(37)	(20)
	生産量	797	440	165	101	58	65	50

資料：農林水産省「作物統計調査」「生産農業所得統計」県農業生産流通課

(注) 端数処理の関係で、各年の内訳を積み上げた数値は、合計の数値と一致しない場合がある。

特用作物

(単位：ha, t)

種類	区分	平成12年	17年	22年	27年	令和2年	4年	5年
オリーブ	面積	42	48	119	196	218	224	224
	生産量	66	89	162	394	490	374	507

資料：農林水産省「特産果樹生産動態等調査」農業生産流通課「オリーブ生産状況調査」

野菜

(単位：ha, t)

種類	区分	平成12年	17年	22年	27年	令和2年	3年	4年
レタス	面積	1,410	1,316	1,040	916	734	707	696
	生産量	33,500	33,300	22,100	18,900	16,500	14,800	13,600
ブロッコリー	面積	187	407	702	981	1,380	1,330	1,300
	生産量	2,020	4,150	7,160	10,700	15,700	13,400	13,300
たまねぎ	面積	507	302	230	213	185	179	176
	生産量	28,900	14,700	10,500	9,370	8,360	7,880	8,570
ねぎ	面積	213	259	305	311	269	266	249
	生産量	3,590	4,380	4,060	4,330	3,460	3,450	3,280
きゅうり	面積	210	154	113	105	95	100	100
	生産量	8,810	6,150	4,610	4,150	4,160	4,270	4,380
いちご	面積	118	114	96	88	85	85	85
	生産量	3,480	3,620	3,050	2,710	3,150	3,340	3,470
アスパラガス	面積	113	84	87	86	84	87	87
	生産量	918	788	966	860	799	1,000	922
にんにく	面積	105	68	85	95	103	99	104
	生産量	1,170	629	728	649	844	751	728
にんじん	面積	121	119	110	110	104	114	108
	生産量	3,800	3,410	2,980	3,070	3,020	3,100	2,960
ミニトマト	面積	—	50	47	42	42	43	41
	生産量	—	2,260	2,020	2,040	1,910	1,850	1,710
なばな	面積	112	—	95	—	—	—	—
	生産量	954	—	730	—	—	—	—

資料：農林水産省「青果物生産出荷統計調査」「作物統計調査」「生産農業所得統計」

花 き

(単位：ha、千本・鉢)

区 分	平成12年	17年	22年	27年	令和2年	3年	4年
栽培面積	473	384	329	267	219	207	194
切花	270	207	154	126	105	102	97
きく	149	108	73	54	39	38	33
その他切花	121	100	81	72	65	64	64
鉢物	37	28	30	26	23	23	22
盆栽	12	9	12	12	12	12	12
その他鉢物	25	19	18	14	11	11	11
花壇用苗物	5	5	2	2	2	2	2
花木	162	145	144	112	90	81	74
出荷量	107,494	80,039	54,948	43,055	32,774	32,346	30,664

資料：県農業生産流通課「花き産業振興総合調査」

果 樹

(単位：ha、t)

種 類	区 分	平成12年	17年	22年	27年	令和2年	4年	5年
温州みかん	面積	1,660	1,460	1,300	1,200	1,080	1,020	974
	収穫量	21,200	19,500	12,900	11,400	11,700	10,000	9,890
ぶどう	面積	295	258	221	201	180	154	131
	収穫量	2,880	2,140	1,510	1,310	1,380	1,210	1,050
なし	面積	64	40	38	41	38	33	31
	収穫量	1,060	581	442	403	345	422	393
もも	面積	337	272	235	216	194	174	173
	収穫量	3,000	1,860	1,680	1,110	883	827	892
びわ	面積	134	107	97	81	71	62	57
	収穫量	843	554	485	291	216	128	169
かき	面積	302	255	221	212	176	147	132
	収穫量	2,150	1,710	1,170	1,220	1,270	1,130	1,010
キウイフルーツ	面積	55	45	48	55	61	59	57
	収穫量	824	600	—	598	571	557	—

資料：農林水産省「作物統計調査」「生産農業所得統計」

畜 産

(単位：戸、頭(千羽))

種 類	区 分	平成12年	17年	22年	27年	令和2年	4年	5年
肉用牛	飼養戸数	560	386	276	229	170	159	153
	飼養頭数	22,400	19,700	18,600	19,300	21,000	21,800	21,700
乳用牛	飼養戸数	260	201	137	99	67	61	60
	飼養頭数	8,570	7,200	5,470	4,890	4,760	4,950	5,040
種 類	区 分	平成12年	17年	21年	26年	31年	令和4年	5年
養 豚	飼養戸数	70	55	49	32	27	22	20
	飼養頭数	46,300	39,400	36,700	37,600	38,500	30,700	31,400
種 類	区 分	平成12年	17年	23年	26年	31年	令和4年	5年
採卵鶏	飼養戸数	170	127	108	62	54	52	43
	飼養羽数	5,791	5,829	6,093	5,141	5,495	5,310	5,445
種 類	区 分	平成12年	17年	25年	26年	31年	令和4年	5年
ブロイラー	飼養戸数	72	60	35	33	30	33	30
	飼養羽数	1,572	1,991	1,841	2,176	2,153	2,500	2,198

資料：農林水産省「畜産統計調査」「畜産物流通調査」「牛乳乳製品統計調査」「鶏卵流通統計調査」「食鳥流通統計調査」畜産課
 (注) 飼養戸数・頭数・羽数は、2月1日現在。

Ⅲ. JA香川県の目指すべきビジョンと方向性

当組合は、令和4年6月に「営農経済事業の将来方向」を制定し、総合事業対応力の強化および営農経済事業の収支改善に向けて、事業運営や組織体制を含めた10年後を見据えた「**営農経済事業将来ビジョン**」を策定しました。

販売環境や生産基盤の変化に対応するため、施設ごとに具備する機能・体制・役割等を明確化して再編することで、組合員・利用者への的確かつ効率的にサービス・商品を提供できる体制を構築します。また、老朽化施設の計画的な修繕や新設・統廃合も含めた機能再編・強化を行い、人材を集約・再配置して組合員・利用者へのサービス強化・利便性確保を図るとともに、**販売力強化と生産振興**に取り組んでまいります。

1. 目指すべきビジョン

- ◆ 農業生産基盤を再生し、食と農と緑を守り地域農業を発展させます。
- ◆ 協同組合活動を推進し、総合事業の力を結集して安全・安心な地域社会をつくります。
- ◆ 組合員が安心して楽しく農業を続けることができる環境をつくります。

2. 目指すべき方向性

- ① 農畜産物の有利販売や生産資材の有利調達など、農業者の所得増大に向けた**自己改革を継続**します。
- ② (公財)香川県農地機構と連携し、農地の荒廃化を防ぐ保全管理や**次世代への継承**を促進します。
- ③ 必要な支援策をパッケージにして、新規就農者や定年退職者などの**多様な担い手の農業参入**を促して新たな担い手の育成を図ります。
- ④ 水田農業を基本として園芸作物も取り入れた**複合経営**を推進して、農業者の**経営力の向上**を図ります。
- ⑤ 消費者ニーズに合わせた農畜産物の生産体制を確立し、**多様な商材形態**の提供に取り組みます。
- ⑥ 県内への農畜産物商流拡大や産直店舗の活性化により、**地域農業の振興や地消地産^{*1}**を推進します。
- ⑦ スマート農業^{*2}の普及拡大等を図り、DX(デジタルトランスフォーメーション)^{*3}を推し進めることで**新たなサービス**を展開します。
- ⑧ 農業者のニーズを把握して営農指導部門とも連携した生産資材の細やかな品揃えをするとともに、スマートフォンやパソコンから、いつでも、どこでも注文ができるシステム構築によって**農業者の満足度の向上**を図ります。
- ⑨ 農業者の利便性向上、総合事業のメリット発揮のため、施設再編のなかで**可能な限りワンストップ化^{*4}**を目指した関連施設の配置を図ります。
- ⑩ 将来にわたる経営の健全性と営農指導経費の財源確保のため、管理コストの圧縮を考慮した**施設の効率的な配置**を図ります。
- ⑪ 高い専門性を有し、組合員と課題を共有し、ともに解決策を模索できる**職員を育成**します。

※1 地消地産:地産地消が、地域で生産された農作物を地域で消費するという生産が起点になっている考え方であるのに対して、地消地産は、地域で消費する農作物を地域で生産するという消費が起点となった考え方。

※2 スマート農業:ロボット技術やICTを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業を実施すること。

※3 DX(デジタルトランスフォーメーション):デジタル技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革すること。既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの。

※4 ワンストップ化:複数の場所で行う必要があった手続きや業務を、一本化して1つの場所で済ませること。

IV. 部門別施策

1. 営農振興部門

重点取組方針

JA自己改革の目標である「**農業者の所得増大**」と「**農業生産の拡大**」を実現するために、農業振興アクションプログラムの成果目標達成に向けて取り組みます。また、農業者との対話活動を通じて寄せられた意見要望を反映し、より効果的な事業運営を展開します。

農業生産基盤の弱体化が進むなか、持続可能な農業を実現していくために、新規就農者確保・定着に向けた取組みの強化がJAにとって横断的な課題となっています。行政機関や関係団体との連携をより深め、各事業の強みと専門性を活かした支援を通じて「募集→研修→就農→定着」という新規就農支援パッケージの実践に取り組みます。また、次世代総点検運動の継続・発展、農業労働力支援および農業従事者数の拡大に取り組むとともに、安全・安心で環境へ配慮した農業の推進を図ります。特に、「国際水準GAP※1の手法」を営農指導の基礎的な手法として位置づけ、「よりよい営農活動※2」として実践・推進することで、生産者の営農リスク管理および経営改善の強化を支援し、**持続可能な農業経営・産地の確立**を目指します。

※1 GAP：農畜産物を生産する工程で生産者が守るべき管理基準とその取組み。

※2 よりよい営農活動：GAPの手法を取り入れた営農活動。

施策		令和9年度目標値
1	「農業振興アクションプログラム」に「持続可能な農業振興」「農業DX」「農業生産支援」「販売力の強化」の4つの柱を掲げ、重点取組事項と重要業績評価指標(KPI)を設定して実践します。	【販売品取扱高200万円超生産者(800万円超生産者)：3,000人(830人)、主要10品目取扱数量：39,500t】 青ネギ 1,671t アスパラガス 694t ブロッコリー 13,494t レタス 11,758t ナバナ 502t キュウリ 1,766t ミニトマト 1,123t タマネギ 5,646t ニンニク 485t イチゴ 2,361t
2	高度化・多様化するニーズに対応した事業運営に取り組むため、農業者(認定農業者・認定新規就農者・認定農業人材等)との積極的な対話活動を実施します。	【認定農業者面談先数：1,700先/年、意見交換会開催回数：21回/年(東讃営農センター：9回、中讃営農センター：6回、西讃営農センター：6回)】
3	農作物被害を削減するため、鳥獣の生態や行動、農作物被害防止に関する専門知識を持つ職員を育成し、農業者の捕獲活動や柵の設置等をサポートします。	【狩猟免許保有職員数：25人/年】
4	作付面積の維持拡大に向けて、地域の農作業受託組織と連携して、農作業受託によるフィールド支援に取り組みます。	【フィールド支援面積：1,500ha(野菜300ha、果樹25ha、米麦等1,175ha)】

施策		令和9年度目標値
5	<p>農作業の効率化と消費者が求める農畜産物の安全性、農業の持続可能性を確保するため、GAP指導員資格の取得推進およびGH農場評価員*の育成・設置を通じた営農指導員の育成に取り組めます。</p> <p>※GH農場評価員：GAP指導に必要な「GAPについての正しい理解」と「農場評価（監査）の技量」について問う「GH農場評価員試験」に合格した者。</p>	【GAP指導員等資格保有職員数：56人】
6	<p>労働力の確保のため、無料職業紹介事業（アグリワーク）や1日農業バイトアプリの活用を促進します。</p>	【マッチング件数：270件】
7	<p>次世代の担い手を育成・確保するため、次世代総点検運動の取組みを通じて、組合員との話し合いに基づく支援策の具体化に取り組めます。</p>	【産地目標検討シートの作成：21品目部会以上（3営農センター×7品目部会以上／年）】
8	<p>農作物が生育するための基盤となる土壌の重要性を啓発するとともに、土壌の健康を保ち、持続可能な農業の実現に向けた具体的な施策を検討・実施するため、職員を対象とした土壌医の会の組織化を進めます。</p>	【土壌医検定の新規資格者数：累計30人】
9	<p>新たな働き手の確保につなげるとともに、障がい者に就労や生きがいづくりの場を提供するため、香川県社会就労センター協議会と連携し、障がい者の就労機会の提供や農業者とのマッチング支援に向けた体制づくりに取り組めます。</p>	【取組み集荷場数：4集荷場】
10	<p>農業の担い手不足を解消するため、新規就農者を支援する「新規就農支援パッケージ」を強化します。研修支援、相談体制の充実、経営サポート等を通して、若者が農業に参入しやすい環境を整備します。</p>	【「新規就農支援パッケージ」の実践】



青壮年部との意見交換会



栽培技術指導

2. 担い手サポート部門

重点取組方針

担い手経営体等の農業所得増大のために出向く活動と対話活動を通じて、経営課題等を把握し、JAの総合力を活かした**「総合事業提案」「事業承継相談」「JA農業経営コンサルティング」**を実践します。この活動により、安定した収入を実現し、地域経済の活性化と農業の持続性をともに築きます。

施策	令和9年度目標値
<p>1 担い手への訪問活動を通じて、経営上の課題解決や経営意向の実現に向けて、各部門が連携したサポートチームによる総合事業提案を実施します。また、効率的かつ安定的な農業経営を支援するため、担い手経営体等の経営戦略や営農計画の策定・実践を支援するJA農業経営コンサルティングを実施し、計画達成に向け伴走支援を強化します。</p>	<p>【総合事業提案先数:40先以上/年、コンサルティング先数:18先以上/年】</p>
<p>2 担い手経営体等に的確な経営アドバイスを行うため、農業経営支援の実践に必要な「農業経営アドバイザー」の資格を有する職員を育成します。</p>	<p>【「農業経営アドバイザー」研修の受講および試験の受験者:10人/年、「農業経営アドバイザー」資格取得者:3人/年】</p>
<p>3 次世代の担い手を育成・支援し、生産者の円滑な事業承継を実現するため、事業承継パッケージの整備・運用に取り組みます。</p>	<p>【事業承継パッケージの検討、整備、実践】</p>



農業経営コンサルティング



担い手サポーター チームミーティング

3. 農産部門

重点取組方針

生産振興においては、水稲は、高温耐性多収性品種の導入による生産量確保、農業DXの取組みによる省力化と一等米比率向上を図ります。

麦は、小麦、はだか麦、大麦の需要に応じた生産量確保およびデータ分析による農産指導に取り組み、小麦のタンパク質含有率向上や経営所得安定対策の品質ランク区分「A」を目指し、農業者の所得向上に努めます。

販売力強化においては、米は、事前契約に取り組むとともに、最低保証価格を提示する「**営農継続可能な契約栽培取引**」の導入を進め、農業者の所得向上に努めます。

麦は、**小麦新品種「さぬきの夢2023」への切替え**とあわせた製粉製麺事業者への販売促進、同事業者による輸出への連携協力、パン用小麦の学校給食で使用量拡大に取り組みます。

育苗センターやカントリーエレベーターの再編整備により生産者の利便性向上、販売力強化につなげます。

環境と調和した農業の推進として、温室効果ガスの排出量削減に向けJ-クレジット制度※を含めた水稲の中干し延長等に関する調査・試験に取り組みます。

※ J-クレジット制度：温室効果ガスの排出削減や吸収を国が認証する制度

施策		令和9年度目標値
1	水稲栽培における水位管理システムの導入による管理作業の省力化を図ります。	【水位管理システム導入台数：50台／年】
2	栽培管理システム「ザルビオ※」を活用した適切な肥培管理、適期防除による農作業の効率化や品質向上による収益の最大化を図ります。 ※ザルビオ：AI(人工知能)を活用して作業の適期を知らせる栽培管理支援システムで、過去の栽培データ・生育モデルや、気象データ・衛星からの圃場解析データをもとに生育予測や病害発生予測を行い、適正な栽培管理や、収穫適期を通知することができる。	【ザルビオ活用内容の検討と圃場実証面積：2ha／年】
3	小麦の新品種「さぬきの夢2023」への切替えをカントリーエレベーター単位で実施し、あわせて製麺事業者への推進による需要拡大に取り組みます。	【「さぬきの夢2023」の新規取扱数量：6,000t】
4	麦の需給バランス安定化に向け、パン用小麦と二条大麦を取引先への推進による需要(生産)拡大に取り組みます。	【パン用小麦および二条大麦の生産数量：1,600t】

施策		令和9年度目標値
5	生産量増加による農業者の所得増大を目的に、米の高温耐性多収品種(「にじのきらめき」等)の導入に取り組みます。	【高温耐性多収品種(「にじのきらめき」等)の作付面積:200ha】
6	麦の豊作時に備えて、従来のトラック輸送と比較しコスト低減につながる船舶輸送の活用に取り組みます。	【船舶による輸送数量:1,400t】
7	農業者の所得安定化を図るため、米の生産前に取引先と数量・価格を決定する事前契約(播種前複数年契約等)に取り組みます。	【米の事前契約数量:14,500t、金額:32.25億円】
8	冷凍冷蔵カット野菜・果物事業における小規模加工施設(テストキッチン)での商品開発・試験販売を展開し、需要動向に基づいた商品ラインナップと今後の事業規模について考究します。	【冷凍冷蔵加工商品の新規商品化数および新規取引先数:3/年(アイテム、取引先)】
9	食農教育の一環として、県産小麦を使用したパンの学校給食への供給に取り組みます。	【学校給食使用量(原料小麦ベース):150t】
10	出荷契約加算金事業、個人ばら出荷支援対策事業など米の集荷率向上に取り組み、集荷量を確保します。また、出荷契約履行率向上に取り組むことにより、取引先との事前契約協議を有利に進め、農業所得の増大につなげます。	【集荷数量:17,500 t】



小麦「さめぎの夢」



農産物検査

4. 園芸部門

重点取組方針

集荷場再編実行計画に基づき、**集荷場の再編**を実行します。

昨今の異常気象が起こるなかで、高品質で安定した生産に対応できる技術指導や販売動向の両面から経営指導ができる**専門性の高い営農指導員**を育成します。

各営農センター管内の主要な品目部会組織を統合することにより、共通の目標に向かって取り組み、組織全体の連携を強化します。

園芸品目の販売においては、**適正な価格形成の実現**に向け、取引先、消費者等の理解醸成に取り組みます。産地の実情を理解し、商材を評価する取引先との連携および販路拡充を図ります。また、青果物のブランド力形成に向け、効果的なPR活動を実施します。

「Z-GIS^{*1}」および「あい作^{*2}」を活用したデータ管理により、農地管理や栽培指導、出荷予測、栽培履歴管理等の効率化を図り、迅速、正確な情報の提供に努めます。

※1 Z-GIS：圃場の位置情報を利用した栽培管理システム。

※2 あい作：営農支援プラットフォームで、作業・防除・生育等を記録することで栽培管理・情報共有を行うことができる。当組合ではブロッコリーの出荷予測システムを導入している。

	施策	令和9年度目標値
1	新規就農者などに対して、高度な技術(施肥、防除、家庭での荷造り調整、マルチ張り、整枝、剪定など)を分かりやすく伝えるための動画配信「アグリスマイル」の利用推進に取り組み、閲覧回数の増加を図ります。	【動画配信「アグリスマイル」の閲覧回数：7,000回】  右記よりアクセスできます。
2	生産者の生産販売向上と経営安定を図るため、営農指導員が目的別に農家訪問(面談)を行い、農家経営、栽培技術、病虫害防除、規格格付、農業資材の提案を行います。	【営農指導員(園芸担当)による農家面談件数：22,000件】
3	「農業インターン制度」を継続して実施し、次世代の担い手として有望な研修生を受け入れ、研修内容を拡充することで新規就農者の育成および定着化に取り組みます。	【農業インターン修了者数：累計31人】

施策		令和9年度目標値
4	資材の高騰により施設栽培への取組みを躊躇している担い手や新規就農者を支援するため、 助成事業を活用した園芸施設の拡大 に取り組みます。	【新規園芸施設の面積:累計6ha】
5	京浜市場向け農産物(たまねぎ、レタス、ブロッコリー等)の輸送について、 JR貨物コンテナ輸送等(モーダルシフト) を活用することで、 効率的な輸送手段の確保 に努めます。	【JR貨物コンテナ等による輸送数量:2,000t/年】
6	取引先に応じて 直接販売・買付取引・自己買受等 の取引手法を用い、 契約的取引額の拡充 に取り組みます。	【園芸品目の契約的取引額:取扱高49億円(うち直接販売・買付取引・自己買受35億円)/年】
7	重点取引先への 販促提案を強化し、県産青果物のPRと消費拡大 に取り組みます。	【量販店等における販促活動回数:36回/年】
8	行政機関、市場、貿易会社などと連携し、 県産園芸品目の輸出拡大 に取り組みます。	【園芸品目の輸出販売金額:1.2億円/年】



令和6年度農業インターン生修了式



満開後から45日程度経過すると、粒が膨らみ、柔らかくなります。病害虫が見られる粒や、極端に小さくて硬い粒を取り除きましょう。

動画配信「アグリスマイル」

5. 畜産部門

重点取組方針

生産から流通まで一体となった組織活動を展開し、オリーブ牛の県内外への拡販に取り組みます。また、県産牛・県産豚を中心に販売の強化および拡充を図るとともに、生産者の顔が見える**効果的なPR活動**に取り組みます。また、香川県などと連携して補助事業(設備・資金関係)を活用し、支援の強化を図ります。

さらに、衛生管理レベルのより高い施設を新設することで輸出促進や販路拡大、**ブランド力の強化**につなげるため県内食肉処理場の再編に取り組みます。

畜産ICT機器(遠隔監視システムや生産管理システムなど)の導入推進に取り組み、作業の効率化・省力化を進めます。

	施策	令和9年度目標値
1	香川県産まれ香川県育ちのオリーブ牛の生産向上のため、「オリーブ牛優良素牛導入促進事業」を活用して素牛を導入しやすい環境をつくり素牛導入頭数の増加を図ります。	【香川県産まれ香川県育ちオリーブ牛素牛導入頭数:880頭】
2	繁殖能力・産肉能力・肉質が優れ、特定の病原菌を持たないハイコープSPF種豚の導入を促進するため「優良種豚導入事業」を活用し導入頭数の増加を図ります。	【ハイコープSPF種豚導入頭数:100頭】
3	讃岐牛・オリーブ牛振興会やJA全農と連携して、オリーブ牛のブランディングを通じて販売単価の向上に取り組みます。	【オリーブ牛年間販売頭数:2,100頭、大阪市場の和牛枝肉平均単価に対するオリーブ牛枝肉平均単価:+310円】
4	讃岐牛・オリーブ牛振興会と連携し、海外の輸出枠が確保できるようJA全農インターナショナル(株)に働きかけ、オリーブ牛の海外輸出頭数拡大に取り組みます。	【オリーブ牛輸出頭数:85頭/年】
5	讃岐もち豚の消費者需要を高め、契約頭数の増加につなげるため、讃さん広場やコープかがわ等での販売強化に取り組みます。	【試食会等の販売促進活動の実施:開催回数15回/年】

讃岐もち豚
キャラクター「もちとん」



オリーブ牛ブランド
デザイン画



6. 経済部門

重点取組方針

ふれあいセンター・農産物直売所等再編実行計画に基づき、**店舗再編**を実行します。

ふれあいセンターの再編については、利便性確保・サービス向上・職員の意識改革に取り組むとともに組合員・利用者の皆さまからの相談に対応できる体制を構築し、**出向く活動の強化**を図ります。

農産物直売所の再編については、品揃え強化施策として直売所間の**横持ち集荷や集荷場仕入の拡充**、農産物のネット販売等に取り組み、販売力強化を図り農業者の所得増大を目指します。また、「みどりの食料システム戦略^{*}」に基づき、化学肥料の使用量を低減するため、堆肥および堆肥入り複合肥料の普及に向けて、営農部門との連携を一層強化します。

※ みどりの食料システム戦略：食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を実現するために令和3年5月に農林水産省が策定した方針のこと。化学農薬、化学肥料使用量の削減や有機農業の面積拡大等を目標とする。

施策		令和9年度目標値
1	購買事業の利便性向上と効率化に向けて、Web受注システムの購買予約受注を拡大します。	【麦の肥料・農薬Web予約受注者数：80人、 水稲の肥料・農薬Web予約受注者数：1,500人】
2	高度化成肥料・低PK化成肥料の一括集中購買により市況に負けない肥料価格を設定し、取扱数量を拡大します。	【高度化成肥料・低PK化成肥料の取扱数量：83,000袋】
3	「みどりの食料システム戦略」に基づき、未利用資源の活用を推奨し、堆肥および堆肥入り複合肥料の取扱数量を拡大します。	【堆肥および堆肥入り複合肥料の取扱数量：286,000袋】
4	農薬の大型規格化による価格メリットの実現のため、農薬大型規格の取扱いを拡大します。	【農薬大型規格の取扱金額：1.6億円】
5	香川県内で需要の多い型式を選定した「JA香川県推奨型式」の農業機械を設定し、一括仕入れによる導入コストの削減に取り組めます。	【推奨型式（トラクタ・コンバイン・田植機）の販売台数：190台】
6	主要3機種（トラクタ・コンバイン・田植機）の点検整備を提案・推奨することで、故障の未然防止と農業生産の効率化および偶発故障によるコスト負担の削減に取り組めます。	【農業機械の点検台数：1,160台】
7	農産物直売所における午後の品揃え充実のため、産直間の横持ち集荷の拡充に取り組めます。	【横持ち集荷出品新規登録者：30人】
8	農産物直売所等の売上拡大を図るため、集荷場仕入や市場仕入の拡充に取り組めます。	【集荷場・市場仕入による売上高：1.6億円】

V. 販売計画

品目別販売計画

(単位：千円、%)

期別 分類	令和6年度 実績	令和7年度 計画	令和8年度 計画	令和9年度 計画	令和6年度を100%とした場合			
	A	B	C	D	7年度 B/A	8年度 C/A	9年度 D/A	
農産小計	米	5,750,387	5,183,414	5,573,414	5,575,414	90.1	96.9	96.9
	麦	525,299	440,000	480,000	528,000	83.7	91.3	100.5
	雑穀・豆類	2,003	3,563	3,563	3,563	177.8	177.8	177.8
農産小計	6,277,691	5,626,977	6,056,977	6,106,977	89.6	96.4	97.2	
園芸小計	果実	2,746,029	3,167,881	3,009,486	2,859,012	115.3	109.5	104.1
	野菜	20,496,088	18,190,958	18,527,184	18,869,630	88.7	90.3	92.0
	花き	656,143	755,124	717,367	681,499	115.0	109.3	103.8
園芸小計	23,898,261	22,113,963	22,254,039	22,410,142	92.5	93.1	93.7	
畜産小計	鶏卵	877,199	875,000	875,000	875,000	99.7	99.7	99.7
	生乳	5,390,463	5,320,000	5,320,000	5,320,000	98.6	98.6	98.6
	食鶏	2,253,253	2,281,357	2,281,357	2,281,357	101.2	101.2	101.2
	肉牛	3,948,842	3,594,015	3,594,015	3,594,015	91.0	91.0	91.0
	肉豚	391,248	359,820	359,820	359,820	91.9	91.9	91.9
	その他畜産物	881,647	741,150	741,150	741,150	84.0	84.0	84.0
畜産小計	13,742,653	13,171,342	13,171,342	13,171,342	95.8	95.8	95.8	
合計	43,918,606	40,912,282	41,482,358	41,688,461	93.1	94.4	94.9	

産直	4,078,727	4,117,000	4,106,000	4,096,000	100.9	100.6	100.4
----	-----------	-----------	-----------	-----------	-------	-------	-------

※記載している計数は、単位未満を切り捨てて表示していますので、合計と一致しない場合があります。



腐植酸入り濃縮堆肥ペレット



ファーマーズマーケットの横持ち集荷

VI. 再編実行計画に関する進め方

令和6年5月に改正された食料・農業・農村基本法に基づき新たに決定された食料・農業・農村基本計画については、初動5年間に農業構造転換集中対策期間として、特に共同利用施設の再編集約・合理化に重点を置いた農業政策の展開が想定されます。

そこで本計画においては、「営農経済事業の将来方向(令和4年6月制定、令和7年3月一部変更)」に基づき、令和6年度に策定を完了した全施設・事業所における再編実行計画に沿って、進捗管理の徹底を図り着実に進めることで、利用量・率の向上による利用料の削減や営農サービスの強化につなげることで、より生産性を高め農業者の所得増大を支援します。

再編実行計画等		主な取組み内容
1	営農センター再編実行計画 【令和4年12月決定】	事業規模が平準化されるよう7地区営農センターのエリアを3地区に見直し、3地区に地域農業振興課を、7地区に農業振興センターを新たに設置しました。今後は業務の機能分担やスリム化に取り組みます。
2	農機センター再編実行計画 【令和4年12月決定】	農機センターの機能を統括農機センター、一般農機センター、農機保管施設とし、庭先点検・圃場修理・農機の引取りを迅速に行うネットワークを構築し、修理点検整備の迅速化と職員の技能向上に向けた施策を実行します。
3	カントリーエレベーター再編実行計画 【令和6年2月決定】	集荷・荷受体制を整備するとともに、地域の実情に沿った規模での新設または増強(修繕)を実行します。
4	集荷場再編実行計画 【令和5年8月決定】	集荷場の機能を総合支援集荷場、特定品目支援集荷場、地域補完集荷場に再編するとともに、営農指導強化、出荷経費の適正徴収、部会組織再編を実行します。
5	ふれあいセンター・農産物直売所等再編実行計画 【令和7年3月決定】	ふれあいセンターについては、集荷場等とのワンストップ化も加味した店舗の廃止・集約を行うとともに、職員の意識改革、組合員・利用者からの相談体制構築、新たな購買方法の提案などの利便性確保・サービス向上施策を実行します。 農産物直売所については、ファーマーズマーケット店舗の設置を基本とした集約を行い、廃止店舗の施設・人員を活用した集荷体制の強化等を実行します。
6	育苗センター再編実行計画 【令和4年12月決定】	育苗センターの県内3ブロック化を行い各ブロックに拠点となる広域育苗センターを設置しました。今後は適正な栽培管理、苗価格設定や生産コスト削減などの施策を実行します。
7	農業倉庫再編実行計画 【令和6年12月決定】	農業倉庫の老朽化状況や立地・環境による基準を設定するとともに、入庫率目標を設定し、老朽化年数に応じて段階的な再編を実行します。
8	土づくりセンター再編実行計画	香川県の「香川県耕畜連携・土づくり推進協議会」での協議内容を踏まえ、令和7年度以降に再編実行計画を決定します。
9	農産加工センター再編実行計画 【令和5年2月決定】	年間精米量の安定稼働と業務のスリム化、茶の商品アイテム見直し、物流の見直しなど抜本的な業務の効率化を実行します。
10	冷凍・冷蔵加工センター実行計画	販売チャネルの拡大およびニーズへの対応に取り組みながら、テストキッチンの年間稼働・製造計画の確立および将来の事業規模の把握に取り組みます。
11	「高松盆栽の郷」組織改編 【令和5年4月1日施行】	管轄部署を中央地区営農センター経済課(現東讃営農センター経済課)から本店経済部経済店舗課(現本店経済部産直企画課)に変更し、補助事業等を活用した集客イベントの開催など、収支改善に取り組みます。

Ⅶ. 農業経営指標

1. 効率的かつ安定的な農業経営の基本的指標

No.	経営類型	経営規模 (ha)	経営概要 (ha)	労働力	粗収入 (万円)	経営費 (万円)	うち償却費 (万円)	雇用労賃 (万円)	農業所得 (万円)	労働時間 (時間/年) (雇用含)
生産方式										
1	水稲+麦	12	水稲(早生) 2.0 水稲(中生) 8.0 小麦 6.0 はだか麦 6.0	基幹1名 補助1名	1,908	1,332	459	52	525	1,888 (2,497)
【水稲】●早生「コシヒカリ」中生「おいでまい」●自家育苗、自家乾燥●一発処理型除草剤●肥効調節型肥料(全量基肥方式) 【麦】小麦「さぬきの夢2009」●はだか麦「イチバンボン」●乾燥は共同利用施設●低PK肥料●経営所得安定対策の交付金を含む										
2	水稲+麦+作業受託	2.5	水稲(中生) 2.5 小麦 2.5 作業受託 耕起・代かき・田植え 12.0 収穫・乾燥・調製 12.0	基幹1名 補助1名	1,251	842	459	12	397	1,751 (1,887)
【水稲】●中生「ヒノヒカリ」●その他はNo.1に同じ 【麦】●No.1に同じ 【作業受託】●耕起・代かき・田植えの受託料は30千円/10a●収穫・乾燥・調整の受託料は38千円/10a										
3	水稲+葉ネギ+レタス	3	水稲(早生) 1.5 水稲(中生) 1.0 葉ネギ 0.4 レタス(年内どり) 1.0 レタス(年明どり) 1.3 レタス(春どり) 0.7	基幹1名 補助1名	2,462	1,562	206	241	660	4,004 (6,836)
【水稲】●購入苗、疎植栽培●乾燥は共同利用施設●中生「ヒノヒカリ」●その他はNo.1に同じ 【葉ネギ】●夏季の余剰労働力を活用 【レタス】●年内～春の継続出荷●前作のうね、トンネルを活用した春どり										
4	水稲+アスパラガス+ブロッコリー	2.2	水稲(早生) 1.0 水稲(中生) 1.0 アスパラガス(施設) 0.2 ブロッコリー 1.2	基幹1名 補助1名	1,529	1,099	314	17	414	3,017 (3,217)
【水稲】●No.3に同じ 【アスパラガス】●「さぬきのめざめ」●ハウス長期どり 【ブロッコリー】●年内～年明どり●セル成型苗●定植・出荷調整支援利用										
5	水稲+レタス+ニンニク	3	水稲(早生) 1.5 水稲(中生) 1.0 レタス(年内どり) 1.0 レタス(年明どり) 1.3 レタス(春どり) 0.7 ニンニク 0.2	基幹1名 補助1名	2,367	1,462	194	229	676	3,514 (6,207)
【水稲】●No.3に同じ 【ニンニク】●乾燥共同施設 【レタス】●No.3に同じ										
6	キャベツ	4	キャベツ(11月どり) 1.0 キャベツ(1月どり) 1.0 キャベツ(3月どり) 1.0 キャベツ(4月どり) 1.0	基幹1名 補助1名	1,622	965	115	214	443	2,574 (5,091)
●品種の組み合わせによる周年栽培●セル成型苗、移植機										
7	イチゴ	0.3	イチゴ(養液) 0.3	基幹1名 補助1名	2,071	1,202	459	225	644	3,756 (6,408)
●「さぬき姫」●香川型高設施設栽培「らくちん」システム										
8	ミニトマト	0.2	ミニトマト(養液) 0.2	基幹1名 補助1名	2,046	1,292	316	284	470	3,770 (7,106)
●購入苗、養液栽培、長期どり●マルハナバチ導入●選果機										
9	みかん+中晩柑+びわ	2.3	露地みかん(極早生温州) 0.5 露地みかん(早生温州) 1.0 露地みかん(青島温州) 0.5 露地中晩柑(不知火) 0.2 びわ(茂木・田中) 0.1	基幹1名 補助1名	1,539	911	149	200	427	2,858 (5,216)
【露地みかん】●「小原紅早生」マルチドリップ灌水同時施肥栽培●「青島温州」隔年交互結実 【中晩柑】●「不知火」 【びわ】●「茂木」5a、「田中」5a										
10	みかん+中晩柑+びわ	1.1	露地みかん(極早生温州) 0.2 露地みかん(早生温州) 0.5 露地中晩柑(不知火) 0.2 びわ(茂木・田中) 0.1 びわ(なつたより) 0.1	基幹1名 補助1名	1,036	521	112	27	488	2,392 (2,710)
【露地みかん】●「小原紅早生」マルチドリップ灌水同時施肥栽培●「小原紅早生」ブランド化による高単価販売 【露地中晩柑】●「不知火」ドリップ灌水同時施肥栽培 【びわ】●「茂木」5a、「田中」5a、「なつたより」10a										
11	施設みかん+施設中晩柑	0.6	施設みかん(小原紅早生) 0.2 施設中晩柑(不知火) 0.2 (せとか) 0.2	基幹1名 補助1名	1,703	1,202	504	33	469	1,918 (2,302)
【施設みかん】●11月下旬加温による7月出荷体系 【施設中晩柑】●無加温栽培、ドリップ灌水同時施肥栽培										

No.	経営類型	経営規模 (ha)	経営概要 (ha)	労働力	粗収入 (万円)	経営費 (万円)	うち償却費 (万円)	雇用労賃 (万円)	農業所得 (万円)	労働時間 (時間/年) (雇用含)
生産方式										
12	キウイフルーツ	0.8	さぬきゴールド 0.3 香緑 0.3 さぬきキウイっこ 0.1 エンジェルスweet 0.1	基幹1名 補助1名	1,184	725	273	23	436	1,958 (2,230)
●一文字整枝、溶液受粉●非破壊糖度センサーによる生育予測と園地区分										
13	施設ぶどう+露地ぶどう	0.4	施設ぶどう 1月加温 (シャインマスカット) 0.1 施設ぶどう 無加温 (シャインマスカット) 0.1 トンネルぶどう (ピオーネ) 0.2	基幹1名 補助1名	1,089	582	317	5	501	1,609 (1,673)
【施設ぶどう】●「シャインマスカット」1月末加温10a、無加温10a 【露地ぶどう】●「ピオーネ」●トンネル栽培●ジベレリン1回処理										
14	露地もも	1.5	露地もも (早生) 0.5 ◇ (中生) 0.5 ◇ (中生) 0.5	基幹1名 補助1名	1,815	1,097	178	241	478	2,236 (5,070)
●早生「日川白鳳」、中生「あかつき」、中生「なつおとめ」										
15	オリーブ	1.0	オリーブ (ミッション) 0.5 (ルッカ) 0.5	基幹1名 補助1名	1,304	738	175	113	454	2,202 (3,529)
●新漬用「ミッション」、採油用「ミッション」、「ルッカ」●自家採油										
16	輪ギク	0.3	秋ギク (神馬2号) 0.6 夏秋ギク (精の一世) 0.3	基幹1名 補助1名	2,269	1,769	384	39	461	3,026 (3,484)
●直挿し栽培、無摘心栽培、土耕栽培●購入穂の活用による品質改善と育苗作業の効率化●四段サーモ変温管理 ●低温期における低温開花性品種「神馬2号」を利用●持込み共選										
17	カーネーション	0.3	カーネーション 0.3 スタンダード:60% スプレー:40%	基幹1名 補助1名	2,723	1,627	436	210	886	3,409 (5,880)
●ベンチ栽培、養液土耕栽培、反射マルチ栽培●全量購入苗●変則4株植え●天敵、黄色蛍光灯活用●二重被覆、循環扇、変温管理										
18	マーガレット+ひまわり	0.35	マーガレット 0.4 ひまわり (施設) 0.2 ひまわり (露地) 0.05	基幹1名 補助1名	1,424	923	364	50	451	3,095 (3,678)
【マーガレット】●全量購入苗●簡易自動定植機●簡易隔離ベット 【ひまわり】●テーブナーダ播種機●種子の与措とベタ掛け										
19	ランタンキュラス+小ギク	0.35	ランタンキュラス 0.25 小ギク 0.1	基幹1名 補助1名	1,424	859	241	108	458	2,838 (4,103)
【ランタンキュラス】●ウイルスフリー塊根の購入による品質および生産性の確保●防虫ネット、シルバーマルチによる病害対策と防除回数の削減 【小ギク】●マルチ被覆による土壌水分確保と雑草抑制●ウイロイドフリー苗の購入●電照による開花調節										
20	酪農	3.0	経産牛 60頭 初妊牛 4頭 ほ育、育成牛 16頭 飼料 (イタリアンライグラス) 3 稲WCS、稲わら収集面積 2.0	基幹1名 補助1名	5,902	5,275	1,670	97	531	4,080 (5,221)
●フリーバーン・ミルクインパーラー方式●自給飼料ラップサイレージ●稲WCS、稲わら利用●乳牛供用年数延長										
21	肥育牛① (黒毛和種去勢)	2.0	肥育牛 120頭 (出荷74頭) 飼料 (イタリアンライグラス) 3 稲WCS 1.0 稲わら収集面積 2.5	基幹1名 補助1名	7,138	6,274	430	3	861	2,945 (2,982)
●舎飼い●自給飼料ラップサイレージ●稲WCS、稲わら利用●肥育期間短縮●余剰堆肥販売										
22	肥育牛② (交雑種去勢)	—	肥育牛 200頭 (出荷133頭)	基幹1名 補助1名	9,330	8,285	389	34	1,011	4,055 (4,457)
●舎飼い●流通飼料主体●肥育期間短縮●余剰堆肥販売										
23	繁殖牛	—	繁殖牛 30頭 (出荷24頭)	基幹1名 補助1名	1,565	1,097	315	0	468	1,409 (1,409)
●黒毛和種●子牛9か月飼養●余剰堆肥販売										
24	養豚	—	繁殖豚 100頭 種雄豚 8頭 肥育豚 1,100頭 (出荷2,267頭)	基幹1名 補助1名	9,346	8,870	745	1	475	3,722 (3,729)
●繁殖・肥育一貫経営●人工授精活用、専用分娩舎での無・半看護分娩●飼養環境および飼料給与適正化●事故率低減										
25	採卵鶏	—	採卵鶏 40,000羽	基幹1名 補助1名	15,506	14,588	1,071	150	769	4,080 (5,840)
●大すう育成方式●自動給餌機等●防疫対策 (高病原性インフルエンザ等) の強化										

※本指標は、香川県が効率的かつ安定的な農業経営の育成を目標として示したものです。個別具体的な経営指導を希望する場合は、当組合の営農センター (地域農業振興課、農業振興センター) までお問い合わせください。

2. 新たに農業経営を営もうとする青年等が目標とすべき農業経営の基本的指標

No.	経営類型	経営規模 (ha)	経営概要 (ha)	労働力	粗収入 (万円)	経営費 (万円)	うち償却費 (万円)	雇用労賃 (万円)	農業所得 (万円)	労働時間 (時間/年) (雇用含)
生産方式等										
1	水稲+麦+作業受託	3.0	水稲(中生) 3 小麦 3 作業受託 耕起・代かき・田植 5 収穫・乾燥・調製 5	基幹1名 補助1名	865	655	330	2	209	1,226 (1,245)
初期的資本整備額27,952千円 【水稲】●「ヒノヒカリ」普通期移植栽培、6月下旬移植●自家育苗、自家乾燥 【麦】●「さぬきの夢2009」										
2	水稲+葉ネギ+レタス	1.5	水稲(早生) 1.1 葉ネギ 0.3 レタス(年内どり) 0.4 レタス(年明どり) 0.5 レタス(春どり) 0.3	基幹1名 補助1名	980	718	139	4	258	3,114 (3,159)
初期的資本整備額13,388千円 【水稲】●「コシヒカリ」●購入苗、疎植栽培●乾燥は共同利用施設 【葉ネギ】●6月～10月どり●夏季の余剰労働力を活用 【レタス】●11月～5月どり●前作のうね、トンネルを活用した春どり										
3	水稲+オクラ+レタス	1.5	水稲(早生) 1.0 オクラ 0.1 レタス(年内どり) 0.4 レタス(年明どり) 0.5 レタス(春どり) 0.3	基幹1名 補助1名	948	660	131	29	259	3,494 (3,835)
初期的資本整備額12,855千円 【水稲】●「コシヒカリ」●購入苗、疎植栽培●乾燥は共同利用施設 【オクラ】●トンネル、露地栽培●「アーリーファイブ」●夏季の余剰労働力を活用 【レタス】●11月～5月どり●前作のうね、トンネルを活用した春どり										
4	水稲+アスパラガス+ブロッコリー	1.7	水稲(早生) 1.0 アスパラガス(施設) 0.1 ブロッコリー 1.3	基幹1名 補助1名	1,055	790	194	9	257	2,285 (2,387)
初期的資本整備額19,803千円 【水稲】●「コシヒカリ」●購入苗、疎植栽培●乾燥は共同利用施設 【アスパラガス】●「さぬきのめざめ」●ハウス長期どり 【ブロッコリー】●年内～春どり●セル成型苗●定植・出荷調整支援利用										
5	キャベツ	2.2	キャベツ(11月どり) 0.6 キャベツ(1月どり) 0.6 キャベツ(3月どり) 0.5 キャベツ(4月どり) 0.5	基幹1名 補助1名	809	552	97	45	213	2,284 (2,810)
初期的資本整備額10,450千円 ●品種の組み合わせによる周年栽培●セル成型苗、移植機										
6	スイートコーン+レタス	1.7	スイートコーン 0.2 レタス(年内どり) 0.5 レタス(年明どり) 0.7 レタス(春どり) 0.3	基幹1名 補助1名	955	689	123	21	246	2,569 (2,816)
初期的資本整備額12,287千円 【レタス】●11月～5月どり●前作のうね、トンネルを活用した春どり 【スイートコーン】●購入苗、人力定植●出荷調整支援利用●レタスのうね、トンネルを活用										
7	ナス+ブロッコリー	1.5	ナス(夏秋露地) 0.15 ブロッコリー(年内～年明け) 1.2 ブロッコリー(春) 0.3	基幹1名 補助1名	1,097	747	90	10	340	2,819 (2,933)
初期的資本整備額9,890千円 【ナス】●露地栽培●購入苗、一文字仕立て●ソルゴー活用により防風ネット張を省力化 【ブロッコリー】●春どり●セル成型苗●定植・出荷調整支援利用										
8	キュウリ+ナバナ	0.3	キュウリ半促成 0.08 キュウリ露地 0.08 キュウリ抑制 0.08 ナバナ 中早生 0.08 ナバナ 中生 0.08	基幹1名 補助1名	769	557	167	1	211	2,514 (2,529)
初期的資本整備額17,366千円 【キュウリ】●ハウス半促成・抑制(無加温)、夏露地 【ナバナ】●「花かんざし」、「花飾り」										
9	露地キュウリ+ナバナ	0.3	キュウリトンネル 0.08 キュウリ夏露地 0.08 キュウリ秋露地 0.08 ナバナ 早生 0.06 ナバナ 中早生 0.07 ナバナ 中生 0.07	基幹1名 補助1名	683	459	98	6	218	2,384 (2,450)
初期的資本整備額10,446千円 【キュウリ】●露地栽培 【ナバナ】●「京の春」、「花かんざし」、「花飾り」										
10	施設イチゴ	0.2	イチゴ(養液) 0.2	基幹1名 補助1名	1,243	817	339	111	315	3,524 (4,835)
初期的資本整備額35,186千円 ●「さぬき姫」●香川型高設施設栽培「らくちん」システム										

No.	経営類型	経営規模 (ha)	経営概要 (ha)	労働力	粗収入 (万円)	経営費 (万円)	うち償却費 (万円)	雇用労賃 (万円)	農業所得 (万円)	労働時間 (時間/年) (雇用含)
生産方式等										
11	ミニトマト	0.2	ミニトマト(養液) 0.2	基幹1名 補助1名	1,841	1,251	316	389	201	3,792 (8,371)
初期的資本整備額28,590千円 ●「千果」●購入苗、養液栽培、長期どり●マルハナバチ導入●選果機										
12	施設ぶどう+露地ぶどう	0.2	施設ぶどう 無加温 (シャインマスカット) 0.1 トンネルぶどう (シャインマスカット) 0.1	基幹1名 補助1名	559	288	180	4	267	1,070 (1,112)
初期的資本整備額20,997千円 【施設ぶどう】●「シャインマスカット」無加温10a 【露地ぶどう】「シャインマスカット」トンネル栽培										
13	露地みかん+施設中晩柑+キウイフルーツ	0.8	露地みかん(小原紅) 0.3 露地みかん(普通) 0.2 施設中晩柑(不知火) 0.1 キウイフルーツ(さぬきゴールド) 0.2	基幹1名 補助1名	779	511	174	13	255	1,838 (1,994)
初期的資本整備額21,597千円 【露地みかん】●「小原紅早生」マルチドリップ灌水同時施肥栽培●「青島温州」隔年交互結実 【施設中晩柑】●「不知火」ドリップ灌水同時施肥栽培 【キウイフルーツ】●「さぬきゴールド」一文字整枝、溶液授粉										
14	キウイフルーツ	0.5	キウイフルーツ (さぬきゴールド) 0.3 キウイフルーツ(香緑) 0.1 キウイフルーツ (さぬきエンジェルスイート) 0.1	基幹1名 補助1名	670	436	159	4	230	1,408 (1,459)
初期的資本整備額20,986千円 ●一文字整枝、溶液授粉●非破壊糖度センサーによる生育予測と園地区分										
15	露地もも	0.9	露地もも(早生) 0.4 〃(中生) 0.3 〃(中生) 0.2	基幹1名 補助1名	959	667	146	89	204	1,996 (3,042)
初期的資本整備額17,191千円 ●早生「日川白鳳」、中生「あかつき」、中生「なつおとめ」										
16	輪ギク	0.2	秋ギク(神馬2号) 0.4 夏秋ギク(精の一世) 0.2	基幹1名 補助1名	1,368	1,147	262	6	214	2,250 (2,321)
初期的資本整備額27,249千円 ●直挿し栽培、無摘心栽培、土耕栽培●購入穂の活用による品質改善と育苗作業の効率化●四段サーモ変温管理 ●低温期における低温開花性品種「神馬2号」を利用●持込み共選										
17	カーネーション	0.15	カーネーション 0.15	基幹1名 補助1名	1,225	858	271	8	359	2,847 (2,940)
初期的資本整備額26,093千円 ●ベンチ栽培、養液土耕栽培、反射マルチ栽培●全量購入苗●変則4株植え●天敵、黄色蛍光灯活用●二重被覆、循環扇、変温管理										
18	マーガレット+ひまわり	0.2	マーガレット 0.2 ひまわり(施設) 0.1 ひまわり(露地) 0.05	基幹1名 補助1名	687	473	179	2	212	1,902 (1,922)
初期的資本整備額18,833千円 【マーガレット】●全量購入苗●簡易自動定植機●簡易隔離ベツ 【ひまわり】●テープシダ播種機●種子の与措とベツ掛け										
19	マーガレット+小ギク	0.25	マーガレット 0.2 小ギク 0.15	基幹1名 補助1名	766	503	183	25	239	2,290 (2,582)
初期的資本整備額19,133千円 【マーガレット】●全量購入苗●簡易自動定植機●簡易隔離ベツ 【小ギク】●マルチ被覆による土壌水分確保と雑草抑制●ウイロイドフリー苗の購入●電照による開花調節										
20	ランキュラス+小ギク	0.25	ランキュラス 0.15 小ギク 0.1	基幹1名 補助1名	841	546	162	32	263	2,391 (2,765)
初期的資本整備額19,133千円 【ランキュラス】●ウイロイドフリー塊根の購入による品質および生産性の確保●防虫ネット、シルバーマルチによる病害対策と防除回数の削減 【小ギク】●マルチ被覆による土壌水分確保と雑草抑制●ウイロイドフリー苗の購入●電照による開花調節										

※本指標は、香川県が新たに農業経営を営もうとする青年等が目標とすべき指標を示したものです。個別具体的な経営指導を希望する場合は、当組合の営農センター（地域農業振興課、農業振興センター）までお問い合わせください。

記載している指標は、令和3年12月に香川県により公表されたものです。今後、新たな指標が公表され次第、当組合のホームページに掲載する予定です。



【お問合せ先】

香川県農業協同組合

〒760-0023 高松市寿町一丁目3番6号

<https://www.kw-ja.or.jp/>



営農経済部門

〒761-8084 高松市一宮町字刷塚1431番地1 Tel.087-818-4115

大川農業振興センター

〒769-2605 東かがわ市中筋53番地2 Tel.0879-26-0846

中央農業振興センター

〒761-0313 高松市下田井町367番地1 Tel.087-847-3839

小豆農業振興センター

〒761-4301 小豆郡小豆島町池田1101番地1 Tel.0879-61-9112

綾坂農業振興センター

〒761-2103 綾歌郡綾川町陶4742番地1 Tel.087-876-0789

仲多度農業振興センター

〒765-0011 善通寺市上吉田町六丁目2番1号 Tel.0877-64-0639

三豊農業振興センター

〒768-0012 観音寺市植田町1735番地 Tel.0875-25-0144

豊南農業振興センター

〒769-1611 観音寺市大野原町大野原1931番地 Tel.0875-54-3124

東讃営農
センター

中讃営農
センター

西讃営農
センター